



# 恕の心



令和4年2月7日 校長 廣瀬 真樹

## 職業人に学ぶ会 開催！



先日、1年生で「職業人に学ぶ会」が開催されました。小松ロータリークラブのご協力を得て、銀行員、消防士、保育士、システムエンジニアなど8人の方に来校いただき、お話をいただきました。それぞれの仕事の内容はもちろん、やりがい、そして大変なことも盛り込んでいただき、充実した時間を過ごすことができました。参加した1年生の感想からは「楽しさだけでなく、責任がある仕事だと改めて感じた」「人と関わる仕事で大切なのは礼儀やマナーだと教えてもらった」など、多くのことを学んだことが伝わってきました。

## 全国学校給食週間



素敵な掲示がかけはしホールにあります。地元の食材や郷土料理の紹介が分かりやすく掲示されています。1/24～1/30は全国学校給食週間でした。今月は3年生に卒業給食も準備されています。

いつも給食があることが「当たり前」になっていますが、安心安全を考え、様々な人が皆さんの給食に携わっています。そのことを想像し「感謝」できる人であってほしいと思います。

## 「頼まれごとは試されごと」

昨年も掲載したものです。皆さん、「頼まれごとは試されごと」という言葉は聞いたことがありますか？これは、講演家の中村文昭さんという方の言葉です。

日々生活していると、子どもだけでなく大人でも、色々な人からお願い事、言い換えれば頼まれごとを受ける事が多くあります。その頼まれごとの中には「なぜ自分がやらなければならないのか」「また面



倒な仕事が増えたな」と感じてしまう事も正直、結構あるものです。しかし、その時に大切な事は、「お、試されてるな！どうやって良い意味で期待を裏切ろうかな」と考える事が大切だと中村さんは言っています。

そもそも、頼む側の立場の人からすると、自分が頼みたい仕事があった時に「この人は出来ないだろう」と思う人をお願いはしません。「この人なら大丈夫」「なんとかしてくれる」と信頼しているから、つまり「あなたならこれは出来ますよね」と思ってお願いをするのです。そんな試されている状況の時に、文句を言いながら嫌々仕事を引き受けたり、何も考えずにただお願いされた事をこなしても何も生まれません。逆にいうと期待以上の事をすると、相手を感動させられるチャンスを頂いたとも考える事ができます。

私はこの「頼まれごとは試されごと」という考え方を定着させると、あきらめずチャレンジする心や相手を思いやる心の向上にも繋がるなど感じています。

何か頼まれたときにはできない理由を一生懸命探す前に、面倒なこと  
も自分にとって何かプラスになると考える。どうせやるなら自分にとって



良い考え方で楽しく過ごしていきたいものです。頼まれたときに笑顔で「分かりました」「やってみます」と言える人には、プラスのことが訪れるのだと思います。なかなか難しいことですが、心がけたいものです。